

# がん性疼痛看護 認定看護師

緩和ケアチームのメンバー



病棟ラウンドの様子



がん相談支援センター



カンファレンスの様子

**第一の転機**  
がん患者の多い  
職場での勤務

**第二の転機**  
痛みを苦しむ  
患者さんとの関わり

**36歳～現在**  
がん性疼痛看護  
認定看護師を取  
得し活動を開始

**21～27歳**  
終末期のケアに  
奮闘する日々

混合の内科病棟で、様々な疾患と急性期から終末期にわたる患者さんのケアに奮闘。終末期のケアに悩むことが多く、学会やセミナーに参加し始める。6年目の時に院内で緩和ケアチームが立ち上がり、活動メンバーとなってさらに関心が高まる。

**29～32歳**  
新たな職場に就職

一念発起し、仙台厚生病院に就職。職場が呼吸器内科という単科の病棟で、専門性の高いケアの必要性を実感する。呼吸療法認定師の資格を取得し、RSTの活動に参加する一方で、多くのがん患者さんと関わり、がん看護や緩和ケア領域の経験を積む。

**33～35歳**  
緩和ケアチームの  
活動を通して資格  
取得をめざす

院内で緩和医療委員会が発足し、緩和ケアチームが立ち上がる。リンクナースとして活動に参加し、痛みを苦しむ患者さんに関わる機会が多くなる。より専門的な知識を身につけたいと思うようになり、がん性疼痛看護の教育課程に入学する。

教育課程を終え復職。呼吸器内科病棟や外来勤務を経て、平成28年度からがん相談支援センター所属となる。緩和ケア担当看護師として、院内の緩和ケア関連の運営に携わり、緩和ケアの提供体制の整備や基盤作りに取り組んでいる。また、多職種と連携し、コンサルテーション活動や、看護師による面談の実施にも取り組み、がん患者の看護に当たっている。

## 我妻 佐知子さん

がん相談支援センター所属  
緩和ケア担当看護師

- 1997年：聖マリアンナ医科大学東横病院入職
- 2005年：仙台厚生病院入職
- 2012年：がん性疼痛看護教育課程入学・修了
- 2013年：がん性疼痛看護認定看護師資格取得

がんの早期から出現すると言われている“痛み”は多くの患者さんが経験する苦痛の大きい症状の一つです。また、緩和ケアは、患者さんやご家族を支援し、がんと診断された時から治療とともに提供することが求められるようになりました。がん治療に積極的に取り組む当院でも、疼痛緩和をはじめとする緩和ケアは必要なケアであり、緩和ケアの充実をはかりたいと考え、がん性疼痛看護認定看護師を取得するに至りました。がんの早期から緩和ケアが提供されることが当たり前となるよう、緩和ケアの提供体制やコンサルテーション活動の基盤を作り、院内において定着した活動ができるよう取り組んでいます。